<table>
<thead>
<tr>
<th>Title</th>
<th>ジョン・メイナード・ケインズ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Author(s)</td>
<td>小泉 明</td>
</tr>
<tr>
<td>Citation</td>
<td>一橋論叢 39(4): 460-480</td>
</tr>
<tr>
<td>Issue Date</td>
<td>1958-04-01</td>
</tr>
<tr>
<td>Type</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>Text Version</td>
<td>publisher</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/3831">http://doi.org/10.15057/3831</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
ジョン・メイヤード・ケインズ

小泉明

『經濟學的』の著者である。彼は一九四四年に『震央論』の中で述べた。

『經濟學的』の著者である。彼は一九四四年に『震央論』の中で述べた。
ケインズ自身の信頼をとらえ得ることになるであろう。一九四五年に彼はその晩餐会の席上における演説のあとで、「私は諸君に乾杯を捧げます。王立経済学会のために、経済学のために、ならびに文明の受託者のために、といっ
てふわふわして考えているなら、ならば、彼はいった。彼は正確に自己のいうものとしての受託者のために考え
ているというのは彼の恩師マシハールの信念でもあっ
た。そして彼の日々の戦いは、自由主義の祖国英国に
あり、彼の学説は現代の経済学の出発点となっている
が、彼の学説は勤学化され、短期理論は長期化され、所得分配の研究は価値分析によって再興され、すべての方法にわたっ
たことにより層の進歩がみられる。科学は時代におくれる
ような大戦における期間において、その情熱と知性のすべてを
傾けて努力したという歴史的事實は、何人も消し去るこ
とできないであろう。

ジョン・メイナード・ケインズは一八八三年六月五
日ジョン＝メイナード・ケインズは一八八三年六月五
日
一橋論集 第三十九巻 第四號 （108）

一九○二年彼は数学者として、キングス・カレッジの試験に合格し入学した。一九〇七年イートン特級給生であった。彼の教育の母は教育者で、彼の友のervals by the teacher are expressed in this paragraph. These are the words the teacher is speaking. This is the information that the teacher is conveying.
ものを表現するため、彼は単なる否定を伴う教養と思想の形成過程を理解するために、「将来的な歴史家による新しい理解が必要である」と考えた。しかし、彼はまた、この手法がどの程度の正確さをもつか、それを理解し得るのかについて疑問を持つこともあった。


彼は『ケンブリッジ』の約三分の二を費して描いている。彼はまた、ヴィクトリア期の時代精神に深く傾倒し、またヴィクトリア期の時代精神に我慢できなかったという点において敬意を表していた。これが後の『パルサント・ストレイ』におけるシルク・ストレイは、彼の生活における新しい時代を表している。
一九〇六年八月、ケインズはインディアーズを辞め、カンブリッジに帰属した。この時期の彼の生活は、彼が学生の生活である。また、マーシャルの指揮下で、経済学の講師を務め、研究を続けた。その結果、経済学の新理論が形成された。この理論は、後の年月を通じて、経済学の基礎を築いた。
第一次大戦が勃発するとただちにケインズは大蔵省に
ようめ急緊要策の立案に協力した。一九一五年には正式
の職員となり、外交問題の政策の責任者をついた。
これは連合国側の経済的政策の中心をなす要員が地
位にあって、彼のその後二度と行政官となったことは
ないが、その役割の重要さをこの時立証した。ケ
ルサイユ平和会議に参加した。

彼はドイツに要求された賠償額が不合理であり、実行
不可能なものであることを力説し、努力をつくしたがロ
イド・ジョージ、クレマッソ、ウイルソン等の巨頭
に対しては彼の地位は低く、議論の巻き上げることができ
なかった。六月の末には辞職して帰国した。それ
で十二月に「平和の経済的帰結」を公刊し、その主張を
世界に問うた。この文書に対する世界的反響は電撃的であ
り、世界を睡らせながら、彼の立場は英国の赤
の官界から破門されることになつた。その後の戦争およ
び賠償問題の困難をかんためた。ケインズの先見の明は立証された。

彼はふたたび、キングス・カレッジにもどった。しか
し講義の賃金を最小限度（二日に一とめたいという希
望を許された。彼は経済的自立の基礎をつくるために一
九一八年九月に証拠金を入れて彼の経済をはじめ
た。まずルピー、ドル、フランス・フラン、マルク、リ
ラ・オンダ・フォーリン等の外国通貨の先物取引から
鉛・ゴム・小麦・砂糖等の商品をとりあげた。はじめ
の頃に失敗して、破綻の寸前におさかれたが、その後は
成功をかかれた。一九二四年末には彼の資産は絵画と書
籍をのぞいて、五七九九九ポンドと計算されてしま
ているが、
それは一九三七年のはじめには頂点に達して五〇六四
五〇％ポートになった。ここでは大病に倒れて中止した。彼
は界から特殊な情報を得たのではないかと推測する者
もいるが、九〇一九年六月から一九四〇年七月まで彼は官
界から少し出されていた。それに彼は一般的経済事情か
らみた事業の見込みと会社の貸借対照表を判断して行動
するのを信条とし、いわゆる「内部情報」というもののは
投資家を惑わすものだというのが彼の基準であった。昨
じめの間彼は景気指標の理論的解釈が可能であると信じ
ていた。しかし証拠金足し彼は絶えず、費ったり買
ったり活発に取引しもうけなくてはならなかった。しかし
基盤ができるにしたがって景気理論の個人的利得に
長期見通ししたがって慎重に選択するという方針に
彼は個人の行動に関する規範と社会的善に関する規範と
を結びつけて考えて来た。また、民相互保険会社の
取締役会に参加し、一九二〇年から一九三〇年まで、そ
の会長をつとめた。また、一九二〇年から「地方保険会
社」の取締役会にも参加し、最終、金融委員長としてそ
の投資政策を指導した。
（113）ジョン・メイナード・ケインズ

トと同じように、確率論の数学者に理論の基礎をあたえようとするものであった。

一九二三年に、条約の改訂版が出版された。その頃、
オックスフォード大学の課程を終えたハロッドはケイン
ズの指導をうけるためケンブリッジに来た。彼は教師と
してのケインズについにこう語っている。ケインズが持
ているマーシャル経済学に関する知識は、彼の领域で
やるべき仕事はあまり多くはなく、経済学の進歩は理
論を実際問題に適用することにあると信じていた。若い
経済学者に興えた彼の秘書は、「書物の影をとられた
ような量の現代の出版物にはあまり気をとられない
かった」ということであった。彼は注意深く、
ビッグなればびに選ばれた数学者の書にまるかすものを読んだ。彼は彼に近い人たちが読まな
ければならないことを加えた。一九四二年以後におけ
る彼自身の読書もおそらくはそれ以上にあまりややいもの
ではなかったと思われた。ハロッドは、彼は彼に近い人たちは読まな
ければならないと思うにした。彼は彼に近い人たちが読まな
たでもある。講義は、彼が教える人々の間に、ケインズの著作には現在の定期刊行文献を
広く読んだ形跡がないという不満があった。これは本番
によって彼は、現代の思考の場の水準にふれることがで
きた。講義は、彼が教える人々の間に、ケインズの著作には現在の定期刊行文献を
広く読んだ形跡がないという不満があった。これは本番
によって彼は、現代の思考の場の水準にふれることがで
「価格こう案は、大いに使われることになった。」
（115） ジョン・メイナード・ケインズ

一九二四年に発表された論説はすでに後の主張、すなわち公共政策−信用循環を除すための信用統制−国家の主導する資本の流動を示すなどの主張が既に含まれていた。一九二四年にマーチャルが述べたように、自由放任の終焉といわれたジェネラルは私的な個人である。そして、経済の統制と人口政策について述べた。ケインズは賢明に運営され、経済の目的達成のためにいつでも、それが何らかの機能を果たすことを期待していた。ケインズは金本位に復帰し、ポンドの価値を上げるか、またはそれを下げ、その結果、彼は金本位に復帰した。さらに、石炭業は損を出して輸出するか、またはそれを切ぐべきか、という信念を示した。
一橋論叢 第三十九巻 第四号 (116)

財政政策の枠組みに、さらに、モノポリソ Giulio と社の目的があるため、提供する
ことが必要である。この手順は、以下のように影響を及ぼす。項目

1. 石炭業の次に金本位制の強化を含む活動を図った。
2. 一九五二年には、自由民主主義の代表として知られる「イギリス
    産業の将来」の作成に積極的に参加した。

一方、トロイは、設定されている金本位制の保有を制限するため、位置を


・「貨幣論」は、一九三〇年、二巻の大著として出版され
    る。この内閣では、オイド・ジョージが彼の公共事業計画
    をとりあげたため、この運動、が必要になった。京都一九三〇
    年内閣の首相は、その委員となった。つづいて一九三〇
    年内閣の首相として、経済調査会議が設置され、ケイ
    クの研究者、カントン、やがては、議論は、公開され
    た。この内閣では、貨幣論の問題についてのケインズの著
    作、「貨幣論」の著者が、その状況によって決定されるもの
    である。もし投資が低落する場合は、ケインズはその委員
    である。不況と失業の問題を忠告するため、この状況は
    約束に対するインフレーションの傾向に影響を及ぼすであろう。従
    来、不況と失業の問題に関する忠告が、不況と失業の問題に
    なった。しかし、ケインズの考えは、この状況は、経済の問題に
    かかった。
（117）ジョン・メイナード・ケインズ

この戦争は、ロバートソンの「銀行政策と価格水準」（九九六年）などであった。この理論からみられる政策の目的は、すべての必要とされる物資を最も効率的に供給することであり、このことは安定的な物価水準をもたらすのである。ただ一国だけがこれを実行することは不可能であることを我々は認識している。

しかし、この理論をとり入れたのは、理論の前提であった。また、各国の投資と貯蓄の一致をできるだけ保証することであった。このことが、世界的物価の変動を起こすような大きな困難がある。その結果、金の価値を管理する国際的なデフレーションを緩和する必要がある。この一九二九年のプドン・ウッズの提言は、この点を示している。

この情報は、九二四年に公開された対策会計に大規模な影響をもたらした。このデフレーションを防ぐため、ケインズは、九三年の終了日から九三年の十二月、日本が満洲の占領を開始し、ついに九二年にわが国の金本位制が解体され、現在の戦争経済の特性が生じた。この一九三一年の規制は、公共事業を力説した。しかし、一九三年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、一九三一年の九月には、イギリスに大規模な金本位制が解体され、
(119) ジョン・メイナード・ケインズ

役割を演じることで否定した。この点でケインズは流動性選好の概念を導入した。富の所有者即ち新しい資産者の手持資産を再配列を決意することができ、そして金利は資産の再配列を決定することができる。資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放すことに対する報酬で資産を所有することの利益と他の資産の保有量を固定の金利を手放ること
ケインズは一九四〇年*二月の「戦費調達論」とにまとめられた彼の提案は一九四〇年二月の「戦費調達論」にまとめられた。}

* 一九四〇年二月 "戦費調達論" にまとめられた。
一九四〇年、彼は母校イノスの管理委員会の一人に選ばれた。彼の影響力は広範であり、委員会の要として職務にとりめた。一九四一年、彼は米国に渡った。英国の金融状態を説明し、武器貸与その他の援助をあおるのが彼の任務で、選ばれた。彼はこのことをよく口伝として職務にとりめた。一九四一年、彼は米国に渡った。英国の金融状態を、武器貸与その他の援助をあおるのが彼の任务で、選ばれた。彼はこのことをよく口伝として職務にとりめた。一九四一年、彼は米国に渡った。英国の金融状態を説明し、武器貸与その他の援助をあおるのが彼の任務で、選ばれた。彼はこのことをよく口伝として職務にとりめた。
ホワイトが「安定基盤」の草案を作成していた。やがて、
両者の計画が行われた。ケインズ案は貿易収支の不均衡
に反対調査した。英国は戦後の国際収支の調整を強
調し、米国は基金を発足し、その要旨について署
名した。この草案は後の四五月の英国下院の
討論に反アメイン主義の強い底流が含まれており、その
通りは遅れた。四五月七日、プレトン・ウッズの四
四月の草案にわたる。議論者の会議で彼は英国代表国を
ひきいて出席した。彼は「国際通貨基金の設立に関する
草案」が発
表されて、この草案は四五月の英国下院の
討論に反アメイン主義の強い底流が含まれており、その
通りは遅れた。四五月七日、プレトン・ウッズの四
四月の草案にわたる。議論者の会議で彼は英国代表国を
ひきいて出席した。彼は「国際通貨基金の設立に関する
草案」が発
表されている。
彼は帰国してティルトンの別荘で一週間静養した。復活祭の前日、母とリディア三人でサセックスの丘陵にドライヴした。気持のいい午後であった。はらすも生涯の苦闘をささげた「自由な土地と自由な民」を遠望して、彼はあの至高の美の一瞬を味うことができたのでなかった。「母を車で帰して、彼はリディアと歩いて丘を下った。それは長い間ないことであった。復活祭の朝、突然の発作がおこった。リディアと母はすぐに飛んでいった。それまでしばしばおこった発作であったが、今度は回復しなかった。二、三分の間にすべてが続った。一九四六年四月十一日、六十二歳であった。

ウェストミンスター寺院の退院式には、九十三歳のジョン・メイナード・ケインズ、ケインジアンの第一人者ハンセンも「アメリカ経済」の第一章（「九七年で『停滞』を第二次大戦後の、『拡大』を第二次大戦後の、特長としてあげている。たしかに第二次大戦後の世界経済、特にその生産の六〇％をしめる米国についてのこの『拡大』という特色は明かでない。それがアメリカの経済枠組を強化することができるであろう。それはもはや、ケインズの『停滞』の経済学は無用になったのである。それは第ニ時大戦後の債権」「債務問題」とは全く異なる条件である。それにも第二次大戦中間期には表面上下競争と経済国家主義の傾向があった。第二次大戦中間期には不完全ながらブレトン・ウィングの協調もみられた。
一橋論叢 第三十九卷 第四號 (124)

定を調整に努力している。その設計はケインズの構想と
努力があなたとなっているとは前にお述べいたほどである。
しかしその当分は最終目的にかかわる重要な条件と
みられないであろう。戦争と長期化をうらやめたというであろう。しかし米国の政策が
実現に至っているように、ケインズ理論の線にそって完全雇用の
革新的な財政政策に基づいて制定した。一方、他の条件として
つあることもとめなくてはならないであろう。戦争の消費主義における
という戦則が、産業の範囲を有している。十分ケインズの理論が、再経
次戦後には、「有効需要の不足は国家の公共支出によう
って補うことができる」というケインズの理論が、再経
济対策の確信を有することになったというべきではないか
ろうか。

またケインズは実際的なケインズ学派というのも
のは外圏の国土に移種できない実生の苗であって、外圏
ではその種子は枯死するかあるいはその枯死する前に毒

一橋論集 第三十九巻 第四十号 (126)

における貧困といわれる沈滞ではなくて、敗戦の荒廃から
の再建であった。戦勝国の中においてさえ、ケインズの
理説がそのままに劣勢なかった。戦後の日本の実際問題を
するという観点で、日本の国際建設の均衡をいかに調
整するかということができた。管理通貨制度の提唱も
レットン＝ウッド体の構想も終盤一貫してこの問題の対
の内経済の拡大政策と国際政策の均衡とは必要ない。この
点において、日本経済は英国経済に比較して大きな
同問題に直面している。それほど高く評価してても今日の所得分析の基礎はケインズにおいてきるか
ったといってよい。もしあたは国際金融家の理論を求めるひ

文献案内
(1) ハートランド：The Life of John Maynard Keynes
(2) 鬼頭三郎：「ケインズ研究」増補版第一九五六年、特にこ
中の「ケインズ経済学解説」は最も簡単で平易な解説で
ある。
(3) J. M. Keynes: The General Theory of Employment, 利子
および貨幣の一般理論」を原则上著者の解説がついている。
(4) (3) ともよく読まれた研究文献
（橋本大義教授）